

1. 特に効果的であり改善に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

《理工農系》

●大阪大学理学研究科数学専攻

「数物から社会に発信・発進する人材の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

博士後期課程の学生に研究計画書を提出させ、面接の上選抜し、RA に採用した。また博士前期 2 年次の学生の内、博士後期課程に進学希望の学生を対象に、後期課程での研究計画を述べる面接を実施の上、選抜し、TA に採用した。TA は学部 4 年次の卒業研究に対する指導補助を仕事とした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

RA への採用は、学生の能力、将来性、研究に対する姿勢などを書類と面接により判断し、援助額を 3 段階に分けて行った。漫然と全学生に一樣に補助をすることとは異なる方法を取り、学生にもその事実を周知させることにより、しっかりとした研究計画と展望を持つことの重要性を伝えるように努めた。また年度末には発表会を行い、研究がきちんと遂行できたかどうかを、学外の専門家の前で発表させた。この結果は次年度の RA 採用時の判定に反映させた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

学生が積極的に、自分の研究計画を作り、それをアピールする努力をする傾向を強めることができた。年度を追うごとに、自分の研究をまとめて伝える能力が増加していくのが感じられた。

1. 特に効果的であり改善に資した事例《非公表プログラムの事例》

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

《非公表プログラムの事例》

E. 学習・研究環境の改善

①TA・RA 制度による修学上の支援

●事例 5

(具体的に何を実施したのか)

- ①分析機器の扱いに習熟した学生を増やし、かつ、そのスキルを継承するRA制度の構築を行った。
- ②学生が研究室のテーマに関わりなく自主的にやりたいことを支援するRA制度の構築をした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ①担当の実験機器が重複しないように、かつ、教員と技術職員が厳しく習熟度を測って、RAとして雇用をした。
- ②修士論文や博士論文のテーマと異なる、自主的なテーマへのチャレンジを推奨するため、応募者にはハードルが高く感じられたようであった。さらに博士前期課程学生は、1年次の終わりころから就職活動が始まるため、応募者には意識の高い学生ばかりであった。募集の原則を変えずに、しっかりとした計画や効率的な時間の使い方も学ばせることを期待した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ①経済支援という側面は決して小さくはないが、一番のポイントは、学生自身が教える側の立場を経験することで、知識を実用のレベルに深め、コミュニケーション能力を育み、成長する機会が与えられたことである。
- ②大型で高度な実験機器の使用にあたっての、技術スキルの継承と、継続的に使用できるe-learningコンテンツができたことは大きい。
- ③本システムが完成し、これから先の需要に期待している。これらは、毎年更新しなければならぬので、これからの学生の教育に十分役立つ。